

# 洛友会報

京都市左京区吉田  
京都大学工学部  
電気科教室内  
洛友会

## 北京だより

洛友会の皆様  
洛友会の会報を送って頂きありが  
とうございました。何か心温まる思  
いで幾度もくりかえし拜見しまし  
た。

この六月には、京都学術代表团が  
中国に来て下さいました。その一行  
中、昭和九年電気教室卒の小原誠先  
生にお目にかかりました。その時は  
この研究院の電気室の青年たちが希

望して、小原先生を囲んで座談会を  
して頂きました。又八月には京都の  
島津製作所の技師三名が中国に來ら  
れましたが、この中の一人西川豊蔵  
先生も奇しくも同じ昭和九年電気教  
室卒でいられ、林千博教授と同期の  
方にお二人にもこの中国で目にか  
かれ、何回もお遇いして、久しぶり  
で思う存分日本語を使つて、中国の  
こと、京都のことなどお話しするこ  
とが出来、全く懐しく嬉しいもので  
した。

次に十月には東京の横河電機の友  
田三八二先生の外二名の技師が來ら  
れ、この方には二度も私共の研究院  
の方に來て頂き講演して頂きました。  
中国の人々、殊に青年たちの新知識  
を学ぼうとする熱情は全く驚異的な  
ほどです。例えば現在国内の大学、  
専門学校を卒業した者は殆んど「俄  
文」を主としているのですが、各語  
学も学ぼうとしています。私共がこ  
ゝに來ましてから早速日本語の学習  
を始め三ヶ月で文法を終え、文章に  
入り、今では「オートム」も、電力  
等の雑誌はほとんど解読し、質問し  
て來る位になつています。



愈々総会が予告通り近かよつて來た。本年は東京支部で骨折つて下  
さるとのことで楽しみに待つてゐる。写真は名古屋で総会が催され  
た時の懐しい思い出。日本ライン下りの船乗場でのスナップ。

今のところ、国内の資料はソ連系  
統のものが多いのですが、日本の学  
術、技術に対して、とても関心と尊  
敬を持ち学びたいと熱望していま  
す。私共の研究院は名の如く、水力  
発電の科学的研究をします。水  
工室、土工室、電気室等幾つかに分  
れております。今度北京の西郊に新  
築され、十月初めに移転して來まし  
た。この院は昨年度、大きく充足し  
たばかりですから建築と共に各科の  
研究設備が進められています。こ  
の時期に日本留学生が帰つて來たと  
いうわけで、私共への温かい歓迎と  
期待には全く有難いより恥かしいと  
言つた氣持です。日本時代に、もつ  
と時間を大切にして学ぶことが多く

あつた筈だつたと自分の不勉強を恥  
じています。  
しかし、こゝでは生活の心配な  
く、たゞ自分の研究に没頭できるわ  
けですから、主人もとにかく一生懸  
命です。この後は京大の諸先生はじ  
め先輩の皆様の御指導を頂きたいと  
切望しております。私は同じ院の資  
料室で日本書籍、資料の職をして  
います。土木、水工、地震の論文と  
が歪計的説明書だの全く嵐で、二  
時には悲鳴をあげていますが、二人  
共やらなければなりません。どうか  
洛友会の皆様、よろしく御支援下さ  
いますようお願い致します。  
この北京の西郊一帯は、中国科学  
院をはじめ各大学、各部の研究機関  
が建設されている學術の中心地帯で  
すが、現在、尚この西郊だけでも統  
々と広大な土地と豊富な資材を使用  
して建設されてゆく有様は、これが  
社会主義社會の誇りなのかと感じら  
れます。中国の姿を色々お伝えした  
と思ひますが、今日は御礼と御挨拶  
だけに止めさせていただきます。  
北京の秋は短かく、もうそろそろ  
毛皮や縮入れのオーバーにくるまる  
頃になりました。  
こちらで幾ら親切にして下さつて  
不自由なくとも、やはり秋には日本  
を、そして京都を思い出します。自  
由に往復の出来る日を想ひ、そして  
又洛友会の皆様の中から中国に指導  
に來て下さることを信じ、その日の  
早く来ることを待つています。その  
節は私の通訳で北京のすみずみを御  
案内しようと思つて楽しみにしてお  
ります。  
京大の諸先生と洛友会の皆様の御  
健康をお祈り致します。

## 加藤先生とテニス

乙 葉 眞 一

加藤先生は三十九年間の大学に於  
ける學術教育両方面に数々の偉大な  
功績を残され將に功なり名遂げて  
満六十三才にて一応退官名譽教授と  
なられ後進に途を開かれたことは芽  
出度いことではあるがその良先生が  
おられなくなつたことは教室として  
も淋しいことに違ひない、然し何と  
言つても他大学に先んじて電子工学  
教室を設立、社會に貢献されたこと  
は我國工業の進歩のみならず全世界  
人類がその恩恵に浴しつゝあり將來  
益々先生の研究がこの方面の指導開  
拓に寄与されることを願つて止まな  
い。  
それにつけても第一に必要なこと  
は健康である。先生は学生時代から  
非常な勉強家で努力家であつて顔色  
がすぐれずよく胃腸を害されたよう  
であつた大学卒業も病氣で十二月に  
卒業された、然し運動家といつても  
決して片糞な勉強家でなく運動方面  
も何でもやられたしクラス必ずクリ  
エーションなどにも卒業して必ず出  
席された、大学時代昼休みにはず々  
と一緒にテニスをやられた、卒業前  
には玉突も少しやられた、先日の退  
官記念晩餐会の席上東大の先生その  
他の方々から先生のテニスが上手で  
あつたかどうかといふことで大分テ  
ニススピリチに花を咲かせた、先  
生は正直な所運動神経は電子学神経  
程鋭敏ではない、玉突もお世辭にも  
上手とはいえない、万年三十組でも  
ある。テニスは卒業後も引続きやられ  
たことは間違いないと思ふ、あの席  
上上手か否かの議論が出るようでは  
無かるるか、まあ中位といふ決論に  
なるのであろうか。

(昭三) 彭 錫 謙  
(代) 齋 藤 淑

(勤) 北京市復興門外木樨地  
電力工業部水電科學研究所

# 予 告

## 洛 友 会 総 会

来る五月十一日(日)東京地区に於いて開催  
総会を機にクラス会など開催の企画を所  
望致します

然し先生はテニスが上手であらうと下手であらうとそんなことはどちらでもよいのでそれが先生の健康を保持し教室におられても一番健康であつたことはテニスのお蔭といつてよからうと思ふ。

御退官後もテニスが出来ればよいがもうお年だからテニスは無理だと思ふ、やられるならゴルフが適当である。

先生は早起きで教室へ一番乗りをせられ若い先生方には恐威であつたらしい、それも出来なくなつたので願はラヂオ体操をおすゝめする。

又散歩が何よりの運動である、下村海南先生は人間は先づ脚が第一に弱きする秘訣だと言つて電車も必ず一停留場手前で下りて歩くこととしておられる。京都の朝の散歩は誠に気持ちよいお宅が下鴨から加茂川附近の散歩は又格別、西郷さんのように大でも連れて行かれるかお孫さんのお姿が毎朝清き加茂の流れに見られることを希望する。

先生は益々御社健で何時までも新しい研究を続けられ後進を指導せられ益々社会のために貢献されると

同時に永年内助の功を積まれた奥さんのためにも一層の慰撫に又お子様やお孫さんと何時までも御門満なる幸福な余生を過されんことを特に切望する次第である。

(註) 本稿は前号に掲載すべきでしたが紙面の都合で本号になりました。御記び致します。(編集部)

### 本 部 予 告

会員各位には希望ある新年を迎えられお芽出度う存じます。

本会も漸く学齢期に達しました。こゝまで、すこやかに生長いたして参りまして、多少營養不足の点はありましても、一に会員各位の一方ならぬ御熱意によるものと深く感謝いたしております。

来るべき総会の開催地につきましては、昨総会において幹事一任と相成り、寄り寄り協議を重ねてました結果、矢張り集の最も良い且つ地方からお出やすい東京と言ふことになり、東京支部の役員の方々も喜んで引受けて下さいますので、来る五月十一日(日)東京地区にて開くことに決めました。詳細につきましては

### 昭 七 会

#### 25周年記念クラス会

昭和七年三月卒業者は廿五周年クラス会を左記の要領で開催し、久方ぶりで旧交をあたため盛会であつた。

一、前夜祭……昭和三十三年十一月二日、加藤信義先生御退官記念講演会、記念品贈呈式、記念晩餐会に出席し、その夜は宿舍鴨川荘に集合、小宴を催し、和洋の古典を觀賞す。

来り合するもの二十四名。

二、本祭……昭和三十三年十一月三日、朝宿舎を出発、クラス二十名にて写真師一名を同伴し、龍安寺、金閣寺、二条城を見物、正午すぎ三条京極の「田毎」にてニンソバを食す。午後五時まで自由行動。午後五時半より洛北「大和」に於て大宴會。鳥養、岡本、阿部、松田、加藤羽村、芝原、林、大久保の九先生の御來駕。クラス二十七名。十時頃散會。

三、記念アルバム……前記九先生(但し松田先生運参のため御不在のまゝ)を中心とするクラス集會写真、九先生の御筆跡、クラス寄せ書、前記三名所見物のスナップ写真多数、「大和」宴會場風景を編輯、それについて各人の家族写真各一葉をおきつめてある。(家族の名前、続柄、年令、職業等の説明書添附)。

クラス生存者四十一名中家族写真提出者三十三名、発行部数は九先生贈呈分九部、クラス配布分三十八部、

予備一部、合計四十八部。

四、経費……収入は前夜祭、本祭費三、〇〇〇円、アルバム費二、〇〇〇円を各人負担、外に有力クラス会員より寄附金若干。

支出はアルバム費に若干足を出し、差引きにおいて約二〇、〇〇〇円の黒字となる。この額は前記寄附金合計額の約四割に当る。

五、結び……記念アルバムは旧年末に全部発送完了。剰予金の処分についてはクラスの総意による予定にて、この処分完了次第決算報告を出す。(左記記念会の幹事は吉岡俊男前田憲一、尚お和田昌博、水田良孝両君の協力を得た。本記事 前田)

### 二十周年記念クラス会 (昭一七)

去る九月二十三日を以て、卒業十五周年を迎えたので、晩秋の十月十七日、京都祇園、関西電力塔映クラブにおいて、記念クラス会を催した。

岡本、松田、阿部、加藤の諸先生を囲んで、クラス生の会する者、遠来の松橋、山根の両兄をはじめ、足立、清原、巳斐、柴山、珠玖、曾谷高橋、谷村、豊田、中沢、野村、土方、浮田等十五名。

午後六時過ぎ、自己紹介に始まつて、今昔の懇談に花が咲き、又宴辭には美形によるひとくさりのおどりがあつたが、和やかに又艶やかに夜の更けるのも忘れて名残りがつきなかつたが、九時過ぎ諸先生を御見送りして會を閉ぢた。

二次会は一同打ち揃つて別宴を張り、大いに気遣ひをあげて十一時前散會したことを附言する。

尚、会するクラス生、いづれも悪筆揃いで、寄せ書をやめることにし、記念写真を撮つたのであるが、素人写真も慎重に過ぎて、日頃の腕

### 十周年記念クラス会 (昭二二)

昭和二十二年九月卒業以来丁度十周年、去る十一月十六日(土)に恩師諸先生の御來臨をお願いして、記念クラス会を関西電力深草荘で行いました。

かねてからの計画も、諸事多忙のため難改し勝ちでしたが、四国や東京方面からも参集、卒業以来初めての挨拶も方々に交され、多彩な顔ぶれとなりました。折からの流感のため出席予定を取消された方々もありましたが、松田、林(重)、大久保、前田、大谷、近藤の諸先生を始め三十名、先生のお話をうかがい、夫々自己紹介を行つて、なごやかな内に時が過ぎ去るのを忘れる程でした。

このクラス会の外に、全員の近況集を印刷発行して、クラスの団結を深めると共に、記念品として銀のバックルを特製致しました。このデザインは意匠登録(?)のため写真には出しませんが、二十二年卒業の方の是非御覽下さい。

(坂井、橋本記)

### (出席者)

- 前列右から小杉、山本(重)、村井、小泉、増田、前田先生、林(重)先生、松田先生、大久保先生、松本、大貫、橋本、辻、清水、大谷先生、坂井、近藤先生、船越、高木、湯浅、坂元、大塚、松岡、加藤、平井、山本(忠)、外山、村田、藤川、柴田。

Kさん

お正月の晴れた日だった。私は炬燵で、落友会の名簿を何と云うことなしにめくって見ていた。すると物故者の中のKさんが目についた。そして学生時代の彼の姿がありありと浮んで、今にも話しかけそうだった。

大正時代は、今日から見ると、ずつとゆつたりしていた。あくせくしていないかつた。従つて学生の日常も常軌を逸脱したような生活が別に可笑しくもなかつた。

その上、学生には学生生活というものがあつて、社会人の何いしれない生活があつて、それを充分に味わうことが出来たのだつた。

親爺が息子の学生に、通帳を持たして、お茶屋通いをさせたとか、学生が一升瓶をぶらさげ、ぶらぶら歩きながら、ちびちびやつて上京から下京へ散歩したとか、学期末払い、学年末払い、或は、卒業払いなどで遊んだとか言つた例を聞く。今から見れば、夢物語りの常軌を逸したものであろう。

Kさんも、奇行の多い人だった。物故したので書くと言ひわけでは無い。私に取つて、Kさんは、矢張り懐かしい人の一人である。彼の楽しい思い出を心に繰り返へすのでなく、文字に現はして見たいのである。

私が彼と知るようになったのは、実験が同じグループになつた時に始つた。

驚いたことにはポケットにウイスキーをしのばせていて、人知れず飲んでいれた。今日のように洋酒が普通に飲まれる時代でなかつたし、学生には高嶺の花のような感じだつた。彼の弁明は、兄さんからもらつたものだと言つていた。然し、兄さんの人柄について彼は一言も言つたことがなかつた。

或る寒い時、実験室のコンクリートに裸足でいるのを見出した。彼は靴を修理しているの、大学へは下駄で来たが、実験室には遠慮したという。何でも彼は信州生れだと聞いたように覚えてる。

何かの次手に伴はれて彼の下宿に行つたことがある。玄関に這入らず

部屋の窓の処に行き、窓から靴のまゝ畳敷の部屋に這入つた。私もついて這入つた。汚ないベツトが一つあるさうだつた。すると下宿の婆さんが私に一寸来て呉れという。窓から飛び出して玄関から台所の土間に出了。土間にへツツイが造つてあつて、煮たきするようになつていた。

婆さんは、私が彼の友達であるかを確かめた後に、次の二つのことを頼まれた。一つは、畳の上に靴であがるのをやめて呉れということ。今一つは、朝御飯を煮ていると、釜の飯をむらしていると、彼が逸早く釜の蓋を取つて飯を盛り釜の前で立ち食いをする。残りの御飯がますてほしい、御飯は出来上つてから食つてほしい、

と言うのであつた。私は、思いもよらなかつたので狐につままれたように彼の処に歸つて行つた。

私は、婆さんの真剣な態度に打たれてKさんに、私の事のことのように頼んで見た。又、婆さんが君にも頼んだのかと、人事のように言つて、顔に特別の色も見せなかつた。それから私は、彼の下宿には行かなかつた。恐らく卒業まで、この下宿にいたと思う。

予告

創設六十周年記念事業

我等の電気教室が開設せられて六十周年。

その記念事業が企画されて居りますから

現に御協力を御願ひします

たのだ。どうしたと聞くと、正服を着ようとしたら袖口がカビだらけになつていたので洗濯したが、まだ、乾かないので手が通せないと言う。そうして、ぶらぶら袖口を動かしながら会社に出かけた。

技師長に挨拶する時は、どうするだろうと思つてしたが、技師長室に通される廊下で、乾かぬ袖口に手を通していた。

夏は過ぎて私共は大学を歸つた。そして秋が来た。高尾の紅葉見物に行くからと、その会社の連中から案内を受けた。二人共よろこんで、その会社の一員の待遇者として参加した。

お天気は上々であつた。集合指定の場所に人々は段々と集つて来た。そして殆ど全員揃つたがKさんの姿が見えない。どうしたのだろうと予定の時間が過ぎたが彼を待つた。

待つていた甲斐があつて、彼の姿が見えた。驚いたことには、その後から、一老人が従いて来る。老人は彼に無関係なのか判らなかつた。

彼が私共に遅くなつたと会釈した時には、かの老人は私共に遠く離れて立ち止つていた。全員揃つたので出発した。京から高尾まで歩くより外に交通機関はなかつた時代だつた。

紅葉狩りに必要な酒は、一升瓶で分散して携行された。行進して相当な時間がたつと、酒が少しづつ飲まれた。Kさんも飲み出した。そして妙なことを言ひ出すまで酔つて来た。

さつきの老人は、一行から離れて、行動を共にした。行進する時は行進し休憩する時は休憩したが、常に離れていた。高尾に着いてから、私共は老人に

ついては、すっかり忘れて仕舞つた。紅葉を見て、一杯飲んだことが、そうさせたのだつた。歸りにはKさんは相当に酔つて、往来の人に、わるふざけさへした。老人は相変らず、後から従いて来るのであつた。

愈々、京都に着いて一同別れた。Kさんが、やがて老人と肩を並べて下宿へ歸つて行く姿が見られた。私も別に深く考えることもなく歸つたが、何処となく老人が気にかつた。

その後、私はKさんに逢うとすぐ、高尾行きの老人について聞いた。彼は無造作に「親爺だよ」と言つた。あの朝、早く父親が下宿に來たので、止むなく高尾へ連れて行つたという。大学から息子が月謝を納めないで父親に呼び出し状が來たので、取り敢えず父親が來たという。実は、Kさんが、月謝を飲んで仕舞つたので、この仕儀になつたと、彼はけろりとしていた。

私は、まだまだKさんの話を知つて居る。彼は憎めぬ人だつた。今でも懐しく思つて居るが、もうこの世にいないのが残念だ。(日生)

会費領収

(前号より続き)

- 一六三 小林 忠男 則内 茂
- 一六四 吳野 弥造
- 一六五 安藤 安二 三国文治郎
- 一六六 山本 幹次
- 一六七 山根 三郎 木村和一郎
- 一七八 糟谷 績 伊原松太郎
- 一八九 北島 憲之 伴 康
- 二〇〇 山本 洋雄 松本 肇
- 二〇一 山口 春男
- 二〇二 古城戸正隆 深谷 通俊

